



高齢者に対する動物介在活動の効果

保健福祉学部 看護学科
准教授 山中 道代（やまなか みちよ）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3412号室
Tel 0848-60-1120 (代表)
E-mail yamanaka@pu-hiroshima.ac.jp
*@(アットマーク)は半角に置き換えてください



専門分野： 老年看護, 慢性期看護,

キーワード： 高齢者, 慢性期, アニマルセラピー, 動物介在活動

● 現在の研究について

日本におけるアニマルセラピーは、「社団法人日本動物病院福祉協会」がコンパニオン・アニマル・パートナーシップ・プログラムをスタートさせた1986年から普及し始めました。私は2012年から、動物介在活動（AAA：Animal Assisted Activity）の効果の評価する研究に取り組んでいます。

AAAは、ボランティアによる動物とのふれあいを主な目的としたものをいい、治療の要素を含む動物介在療法（AAT：animal Assisted Therapy）とは異なりますが、どちらも心理的な効果などがあることは分かってきています。AAAやAATに関する研究は始まったばかりで、十分明らかになっていない効果もあります。高齢者施設でAAAを実施しながら、さまざまなデータを収集し、短期的・長期的な効果や安全性などを検証しています。

これまでに、自律神経や不安、脳の血流に対する効果を測定してきました。いずれにおいても効果があることが示唆されていて、中でも、認知症高齢者に対しては、適度な緊張感や集中力につながる可能性が見えてきました。しかし、対象者が少なくまだ十分な結果とはいえません。

● 今後進めていきたい研究について

アニマルセラピー協会と高齢者施設の協力で高齢者を対象にAAAを実施し、効果の評価を続けています。将来的には、高齢者の意欲向上や自立を促進させることで、三原市の高齢者の介護予防に役立てていきたいと考えています。また、現在は高齢者のみを対象として行っていますが、終末期の患者や障害や疾病をもつ子どもに対する効果も検証していきたいと考えています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

高齢者施設と引き続き連携し、より多くの高齢者に対する効果の評価をしていきたいと考えています。

● これまでの連携実績

三原市県立広島大学研究開発助成事業
NPO法人アニマルセラピー協会
サンライズ港町
有料老人ホーム「あすなる苑」